米国の継承日本語教育学校紹介

連絡先		
学校名（またはプログラム名）ウェブサイト	学校所在地（例　カリフォルニア州ロサンゼルス）	連絡担当者のお名前とメールアドレス
Gardena Buddhist Church Japanese Language School www.gbcjls.org	1517 W. 166th Street, Gardena CA 90247	Madoka I. Hull (310) 327-4627, EX 103 jlsheadmaster@gmail.com

学校について	
学校（あるいはプログラム）の設立の年と設立の背景	June, 1928, two years after Gardena Buddhist Church was established. The school started with 2 teachers and 70 students. Only Saturday division with all day class instruction was offered.
教育目的とゴール	Carry on the great heritage, language and culture Heritage/bilingual education
学校運営資金、資金の支援組織・団体（もしあれば）	Student's tuition
学校の組織（例　理事会、父母の会、教師会など）	School Board, association of Teacher & Office Staff, PTC (Parents and Teachers Council)
学校施設（例　公立の高校の施設を有料で借りている、コミュニティーセンターを無料で使用）	Our own school buildings

家庭数
270

子どもの言語背景			
日本語だけを話す	日本語と英語（または他の言語）を話すが、日本語の方が多い:	日本語と英語（または他の言語）を話すが、英語（または他の言語）の方が多い	英語（または他の言語）だけを話す。(家庭では日本語は使われていない)
約________%	約________%	約________%	約________%

★ 学園の生徒の使用言語はアンケート等で調査をしないと実際の数字は割り出せませんが、小学校から 12 年生の生徒は日英両語を話すが日常生活では英語が強い生徒が大半を締めると思う。プルスクールの生徒は日本から来ている両親のもとに日本語を家庭で話している生徒が多いが、

最近、international，inter-racial　の保護者の組み合わせもふえているため、英語を理解してプリスクールからかなりバイリンガルの生徒も多い。

授業数		
授業のある曜日	授業時間（一日の総時間）	授業のコマ数 (例１時間目：8:45-9:30)
Monday to Saturday	* Preschool & Day Care Center – full time * Japanese language divisions- Daily – one hour Saturday – 4 hours	Japanese Language Division Daily – 3:45-4:45 (one hour a day) Saturday – (4 hours per Saturday) 1st Period --- 8:30 – 9:20, 2nd period --- 9:30 – 10:20 3rd period --- 10: 40 – 11: 20 4th period --- 11:30-12:20
授業内容について特記することがある場合、ここにご記入ください。 （少し質問内容の的からはずれるかも知れないが）継承日本語教育を行っている日本語学校の中で、補習校ではない当学園の生徒のレベルは非常に高く、難なく日本語でかなり高いレベルの授業を今迄保持する事ができてきた。その為、キンダークラスから１２年生まで学年もしっかりと保てる事ができている（上級２クラスはコンバイン）。しかしながら、高学年になると日系人等、家庭言語が完全に英語の生徒は学年が上がるにつれて、クラスについて行く事が困難になり、そう言った生徒のレベルやゴール設定をしても、上級生の場合、彼らのセルフエスティーム故、自分の日本語のレベルがクラスの生徒に比較して劣っていると思い、いやになって退園の一つの理由となってしまう。最初から JHL と JFL のクラスに分けるには生徒の数に限度があり（少なすぎる）、また、ある学年で生徒を分けようとすると保護者が難色をしめす為、難しい。今年から JFL のクラスを開いてみている。		

日本語のコースについて		
コースの種類 （記入例　継承語（日本語を家庭で話す児童のための）コース、親は日本語母語話者であるが日本語を話さない子どものためのコース、外国語としての日本語のコースなど）	レベル （記入例　幼児部）	各レベルの学習者数（過去 3 年の平均） （記入例　15 名）
日本語イマージョンの幼稚園及びデイケアセンター（日本の幼児教育、カリキュラムを導入、保育は日本語のみで行われている）平日及び土曜コース	幼稚部（２才〜キンダー入園前の年齢）	114 名
継承日本語クラス、平日及び土曜コース（授業は日本語のみでおこなわれている）	K〜12 年生	230 名
JFL クラス、平日コース	8-12 才	4 名

成人日本語クラス（JFL)初級、中級	成人、高校生	12-14 名

教師				
教師数	給料が支払われる TA　（アシスタント）数	ボランティアの TA 数	教師のバックグランド（記入例 日本の幼稚園免許保持者 XX 名、アメリカの教員免許保持者 XX 名、など）	教師研修の有無（記入例 学校独自のもの：年 2 回 継承語学校対象のもの：年 1 回 地域の日本語教育一般のもの：年１回
27 名	5 人		日本の保育士免許–9 名 アメリカでの保育士の単位保持者−７名 日本の教職免許−２名，日本の短大又は学士	継承語学校対象のセミナー：年１回加州日本語学園協会主催の研修会に参加、他は各自教師がセミナーや勉強会に参加
教師に関して追加情報がある場合、ここにご記入ください。 幼稚部ディレクター（幼児教育修士号習得中） 幼稚部保育士の中には日本及びアメリカでの単位、資格習得				

教材（上記各レベルで使用の教材。教科書があればタイトルと出版社名を記入してください。自作教材を使用の場合、内容を説明してください）	
レベル	教材
キンダー	きそがためドリル「ひらがな」、「かずとけいさん」（受験研究社）その他、教師作成教材
入門	やさしい日本語シリーズ（入門）（加州日本語学園協会編纂）
１年	やさしい日本語シリーズ（初級）、その他
２、３年	やさしい日本語シリーズ（中級）、ひろこさんのたのしいにほんご、その他
３、４年	やさしい日本語シリーズ（上級）、その他
５年	やさしい日本語シリーズ（最上級）、その他
６、７年	日本語中級 J301（基礎から中級へ）（スリーＡネットワーク） その他教材は様々な物を使用。 教師作成の教材（現在、話題になっている人や事や記事等ネットや日本語の雑誌から抜粋し、読み、書き、口頭発表、漢字等を勉強させる。日本語検定試験の準備
８年から１２年	ニューアプローチ中級日本語（基礎編）AGP アジア語文出版 日本語中級 J501　中級から上級へ（スリーエーネットワーク） Adventure in Japanese ４

	教師作成の教材，その他いろいろ。

教育機器・テクノロジー（学校で使用している機器やテクノロジーを記入してください）
コンピューター、インターネット、プロジェクター，TV、VCR、DVD

評価方法（どのように学習者の学習到達度を測っているか）
学園が作成した成績評価を使用。

現地の学校との連携の有無（例　日本語クレジットテストを実施し、パスすると現地の高校の外国語のクレジットがもらえる）
現在はない。数年前まで当園の生徒は加州日本語学園協会主催のクレジットテストを受験していたが、トーランス学区の高校（当学園の生徒の殆どが所属している）がクレジットテストを語学の単位として認めなくなった為、現在は現地校との連絡はとっていない。クレジットテストの単位を認めなくなった理由はトーランス学区の高校で日本語のクラスを取って欲しいため。生徒が少ないとステートから教育費がおりないので、他の語学学校に行ってクラスを取って欲しくない為（政治的意図）。

日本文化を教えるための行事や活動（年間を通してどのようなことをしているか）
もちつき（実際に臼と杵で餅をついて丸めて食べる）、書き初め、豆まき、ひな祭り、運動会端午の節句

その他（上記項目以外の追加情報があれば記入してください）